

# 水無月俳句・短歌集

## みなみうわ俳句会

菜の花の絨緞漁村尽きるまで  
春の息ととのえている山桜  
ビブラート利かせ鶯鳴きやます  
陽炎やしまなみ海道ゆれ止まず  
山々は桜々の過疎の里  
小綬鶏に返事しており一人住む  
陽炎や白きヒールの遠ざかる  
春寒や澄みたる鏡水張り田

## 御荘俳句会

乾きたる音のして竹皮を脱ぐ  
農避けし農に癒され老いの春  
語らいの続く海まで春日傘  
真新の石罅置かれ薄暑かな  
春惜しむ淋しくなれば本を買ひ  
葉桜や訪ふ人もなく山の寺  
檳榔子  
泊舟の潮ひたひたと春の闇  
一天をともし谷間の遠桜

小島 泰子

濱 初榮

田口ひさ子

長尾 則夫

宮下 峰月

木村 智子

中川千代子

若林八重子

尾崎 松恵

加洲勢津子

山本 金子

吉田モミエ

三好ミキエ

楠若葉となりの嬰の笑い声

春の闇猫の横切る気配して

目交を音なき宇宙飛花落花

町並みに残る格子戸紅枝垂

花の山車窓に映りどこまでも

山笑う七色の声競いつつ

ポケットに孫とあそんだ春の草

## 西海俳句会

うららかや孫と車でお買物

日脚伸ぶテレビの旅に地図拡げ

入園児紺の制服黄ぼうし

買物も畑も長子と風光る

土産屋に男が五人春シヨール

## 新くさの葉短歌会(はこべ)

葉大根の種落としゆくゆつくりと菜ずし作る日を楽しみながら

若者少なき小さな部落の年度常会役員きまらず時間すぎゆく

何時もより早く起床し諏訪の杜のデイサーピスの車待ちおり

帰省のたび線香あげに来てくれる孫は丈伸び大人びてきぬ

突然に彼女を連れて帰るとい息子のメールにとまどうもうれし

久々に明るき声に訪ね来ぬ頬美しき乙女となりて

山口 和子

若山 節子

小島 泰子

濱野 康子

山口 薫

若林八重子

吉田 朝子

吉田 久江

利根早智江

吉田 朝子

吉田 笑代

吉田 弘定

倉田美津枝

齊藤トミ子

市川コマエ

長田ハル子

西崎 文恵

前田 充



## はじめまして。赤ちゃん。

(4月受付分)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

(4月受付分)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。